

## お詫びと訂正 (Virtage)

このたびは、BladeSymphony BS320（以下 システム装置）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。システム装置に添付のマニュアルに訂正箇所があります。謹んでお詫び申し上げます。

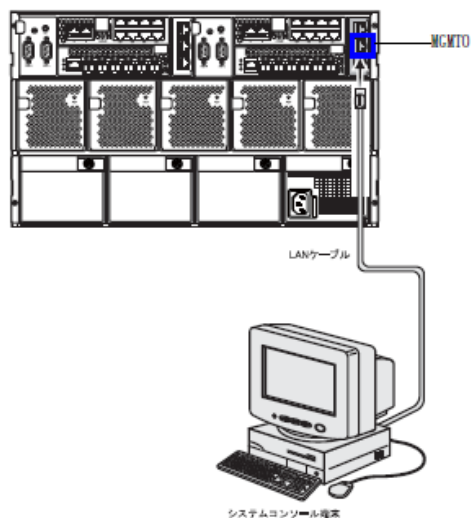
### ■ Virtage ユーザーズガイド 導入編(第2版)

「2 HVM の導入」「2.1 導入前の準備」「2.1.1 システム装置へのケーブル接続」 (p. 13)

誤

システム装置背面の SVP コネクタモジュール MGMT0 ポートと、システムコンソール端末を LAN ケーブルで接続してください。

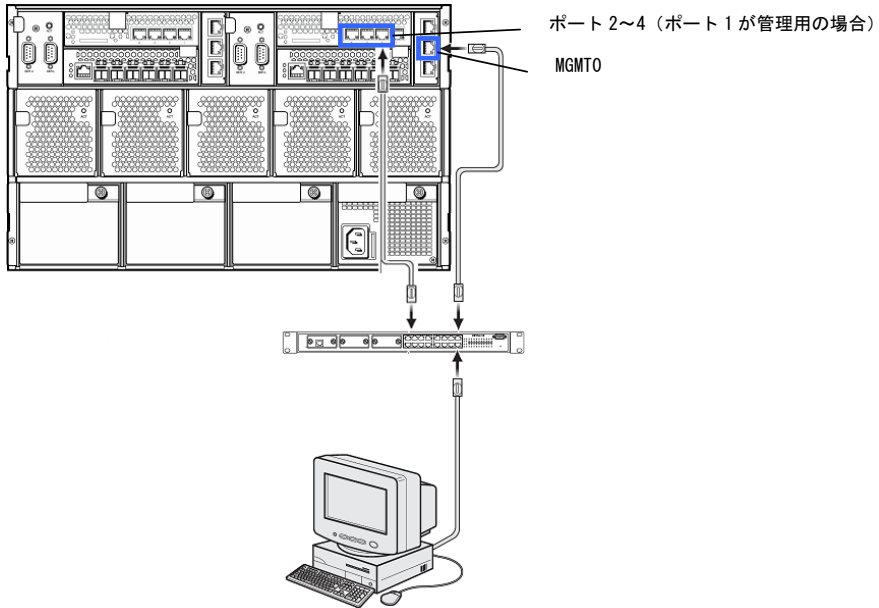
マネジメントモジュールが 2 台搭載されている時はプライマリ/エラーランプが緑色に点灯している側の SVP コネクタモジュールに接続してください。



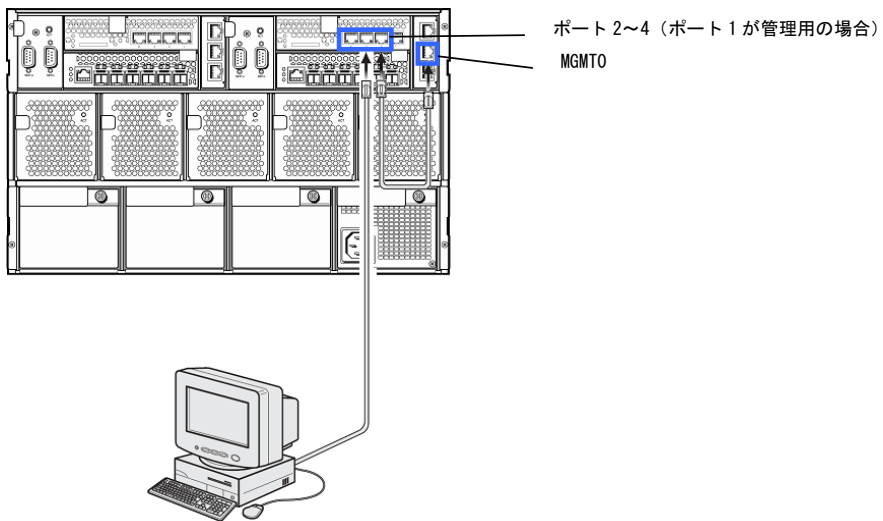
正

HVM の導入前に、管理パス用のネットワークケーブルの接続を行っていただく必要があります。  
LAN スイッチを使用しない場合 (例 1)、LAN スイッチを使用する場合 (例 2) のネットワーク接続の形態を以下に示します。

### LANスイッチを使用する場合(例1)



### LANスイッチを使用しない場合(例2)



「付録」「付録 A 製品仕様」「付録 A.3 HVM がサポートする機能」 (p. 22)

項目		HVM ファームウェアバージョン				
		17-2X~	17-4X~	17-6X~	17-7X~	17-8X~
ゲスト OS	:					
	Red Hat Enterprise Linux 6.1 *2	×	×	×	×	○
	:					
	:					

項目		HVM ファームウェアバージョン				
		17-2X~	17-4X~	17-6X~	17-7X~	17-8X~
ゲスト OS	:					
	Red Hat Enterprise Linux 6.1 *2 *4	×	×	×	×	○
	:					
	:					

(中略)

\*4 サーバブレード(P4 モデル)ではサポートしていません。

## ■ Virtage ユーザーズガイド 機能解説編・構成構築編(第2版)

「2 システム運用機能」「2.7 時刻設定」 (p. 41)

誤				
部位	時刻 タイマカウンタ	精度	ユーザ変更手段	ユーザ保存手段
:				
ゲスト	タイムゾーン	—	ゲスト OS コマンドなど	—
	OS システム時刻	±2 秒/日	ゲスト OS コマンドなど	—

正				
部位	時刻 タイマカウンタ	精度	ユーザ変更手段	ユーザ保存手段
:				
ゲスト	タイムゾーン	—	ゲスト OS コマンドなど	—
	OS システム時刻	±2 秒/日 ※3 ※4	ゲスト OS コマンドなど	—

(中略)

※3 : HVM が推奨しないカーネルパラメータの場合、OS システム時刻が大ききずれる、ブートに失敗するなどの現象が発生する場合があります。

※4 : Red Hat Enterprise Linux 5.3 (AMD/Intel 64) では、スケジューリングモードが共有モードでサービス時間が極端に低い場合に、10 秒/日程度までずれが大きくなる場合があります。この場合は、サービス率やプロセッサグループの設定を見直してください。

## ■ Virtage ユーザーズガイド 運用編(第2版)

「2 HVM スクリーンによる運用」「2.1 HVM スクリーン操作」「2.1.2 HVM スクリーン」 (p. 41)

**追加** 「(1) 論理プロセッサに物理プロセッサを割り当てるには？」の下に追加

### ⚠ 注意

- 本機能を使用している場合で、物理プロセッサ数が減少する構成変更(ハイパースレッドの有効から無効への変更など)や、HVMファームウェアの特定バージョンへのアップデートを行った場合は、本構成情報の再設定が必要となります。
- 本構成情報の再設定が必要となる状況と対応内容について以下に示します。

HVM ファームウェアバージョン	物理プロセッサ数の減少	対策内容
(1)現在使用中のバージョン	有	設定がそのまま引き継がれますので、存在しない物理プロセッサ番号が設定されたままとなります。 Logical Partition Configuration スクリーンで、本機能を使用している LPAR の論理プロセッサ数の再設定を行います。 その後、論理プロセッサへの物理プロセッサ番号の設定が必要な場合は、Logical Processor Configuration スクリーンで再設定を行い、HVM 構成情報の保存を行います。 再設定を行わない場合、JPI/SC/BSM からの LPAR 構成情報作成、更新がエラーとなります。
17-20~17-42		
17-60~	有	
(2)特定バージョンへのアップデート	有	設定が初期化されますが、内部的に情報を持ったままとなります。 Logical Partition Configuration スクリーンで、本機能を使用している LPAR の論理プロセッサ数の再設定を行います。 その後、論理プロセッサへの物理プロセッサ番号の設定が必要な場合は、Logical Processor Configuration スクリーンで再設定を行い、HVM 構成情報の保存を行います。 再設定を行わない場合、物理プロセッサは HVM が自動的に割り当てます。
アップデート前	アップデート後	
17-20~17-42	17-60~17-7X	

「2 HVM スクリーンによる運用」「2.4 注意事項」 (p. 114)

**追加** 「2.4.1 HVM 起動時の前提条件について」の下に追加し、以降は繰り下げて読み替えてください。

### 2.4.2 最大解像度について

- リモートデスクトップ、リモートコンソール、JPI/NETM/Remote Control 使用時の最大解像度を以下に示します。

アプリケーション	最大解像度	備考
リモートデスクトップ	—	最大解像度まで指定可能です。(例 1280×1024)
リモートコンソール	1024×768	ゲスト OS の解像度を 1024×768 にすることを推奨します。 ゲスト OS の解像度を 1024×768 以上にした場合、コンソール端末では画面の中の 1024×768 分だけ表示されます。画面はスクロールバーの操作によりスクロールできます。
JPI/NETM/Remote Control		

